

図書だより

令和7年12月
網干高等学校図書館

もうすぐ冬休みですね。クリスマス、お正月と行事続きで落ち着いて本を読む時間はなかなか持てないかもしれません、たまには家でゆっくりと本を開いてみるのもいいですよ。授業が午前中になるので、休み時間には図書室を開けています。冬休みに読書しようかな？という人、受験が終わったしなにか小説でも読もうかな？という人、これから受験で小論文を書かなくちゃ…という人も、図書室に来てみてね。

先日の講演会で、視覚障がいのある野元和明さんのお話を聞きました。障がいやコンプレックスを個性ととらえ、ポジティブに毎日を過ごされる野元さんの姿に大きなパワーをもらいました。

図書室には、他にも聴覚障がいのある方の書いた本や、全く見えないけれども美術館で絵を感じるのが好きだという白鳥さんの話や、目が見えない方にインタビューをした伊藤亜紗さんの本などもあります。ぜひ、読んでみてください。毎日の生活に少し勇気がもらえるはずです。看護、福祉系を目指す人にもおすすめです。



『コーダのぼくが見る世界』



『音のない世界で
コミュ力を磨く』



『目の見えない人は世界を
どう見ているのか』



『目の見えない白鳥さんと
アートを見にいく』

今月は600番代の本を紹介します！

◆ 今月は6類の本を紹介します ◆

600番代には「産業」に関する本が並んでいます。産業ってなんだろ？農業、水産業、林業、商業、畜産業、交通と通信など私たちにも身近な事に関する分野です。ペットに関する本や、観光に関する本も600から始まる分類の中に含まれます。

『パッケージのひみつ』 (673)

パッケージに込められたデザインの工夫。知れば納得！！使いやすさ、訴求力、意匠性、さまざまな面から、デザインの工夫や秘密を紹介します。みんなの知っているあの箱やこの箱も登場します。 ⇒商業の本はここにあります。

『てっぱく発鉄道物語』 (686)

鉄道博物館の副館長と学芸員による解説とコラムをまとめた一冊です。車両のこと、路線のこと、鉄道に関するミニ知識や写真がいっぱいです。

⇒鉄道や観光に関する本も6から始まる棚に並んでいます。

『イヌの気持ちがおもしろいほど わかる本』 (645)

イヌのしぐさに隠された本当の気持ちを収録しています。もしかしてガマンしている？本音を知つたら、余計にイヌのことがかわいくなってしまいます。

⇒人が飼育する動物たちの本はここにあります。



『さばの缶づめ、宇宙へいく』 (667)

「宇宙食、つくれるんちゃう？」はじまりは生徒の一言だった。先輩から後輩へ引き継がれ、漁師さんも巻き込み、皆に支えてもらいついにさば缶が宇宙に行くまでの物語です。 ⇒漁業・水産関連の本はほかにもあります。

『いちばん大切な食べものの話 どこで誰がどうやって作ってるか知ってる?』 (610)

私たちのからだは食べもので出来ているのに、その食べ物のことをあまり知りません。食糧自給率が38%の日本。日本の食を考える本。 ⇒農業の本は他にもあります。



後期の新刊が届きました。
文学（小説）の新刊を一部、紹介します。

新着図書

タイトル	出版社
乙女の本棚 夢十夜、きりぎりす、檸檬、夜叉が池	立東社
本を読んだことがない 32歳がはじめて本を読む	大和書房
8番出口 小説	水鈴社
ノウイットオール あなただけが知っている	文藝春秋
ブラック・ショーマンと名もなき町の殺人・むかし僕が死んだ家	講談社
幸せな家族 そしてその頃はやった唄	中央公論新社
軽いソリノリのイルカ	マガジンハウス
わたしたちが光の速さで進めないなら	早川書房
僕たちの青春はちょっとだけ特別	東京創元社
エピクロスの処方箋	水鈴社
右から二番目の星へ	小学館
蛍たちの祈り	東京創元社
翠雨の人	新潮社
無気力探偵 1、無気力探偵 2 MPエンタテイメント	マイナビ出版
近畿地方のある場所について	KADOKAWA
怪異一百モノ語ー 僕が君に語りたい百の怖い話	マイナビ出版
禁忌の子	東京創元社
夏の匂いがする	マイクロマガジン社
海は忘れない	小学館
ストロベリームーン	すばる舎
チ。—地球の運動について— 全8巻	集英社

★その他にもこんな本が入っています！！

『私はこうして勉強にハマった』

ビリギャルって知っていますか？彼女が、学年ビリから1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した勉強法を1冊の本にまとめました。



『こちら、美ら海水族館動物健康管理室』

修学旅行で皆さん行った美ら海水族館には、水族館の動物たちの健康を守る部署があります。看護師、検査担当者が飼育員といっしょに一つのチームとなってたくさんの動物たちの命を守っています。そこには人と動物の感動のドラマがあります。



『本を読んだことがない 32歳がはじめて本を読む 走れメロス・一房の葡萄・杜子春・本棚』

生まれて一度も読書をしたことがない男が本を読んだら、一体どうなるのだろう？そんな素朴な疑問がきっかけで生まれた本です。Webで100万人の目に留まることとなった不思議な読書体験と一緒に味わってみませんか？



『みたてのくみたて』

様々な身の回りのものを何かに見立てたミニチュアの風景写真を見たことはありませんか？写真家・田中達也さんのアイデアを生み出す秘訣や、発想の豊かさが詰まった本です。見るだけでも楽しく頭が柔らかくなる気がします。

『うまたてダメな写真とヘタだけどいい写真』

私たちはスマホで毎日気軽に様々な写真を撮ります。皆さんは、これから的生活でもっともっとたくさんの写真を撮ることでしょう。せっかく撮るなら上手じゃなくても「いい写真」が撮れたら嬉しいですね。気持ちが伝わる写真を撮るヒントが書かれています。

